



碧南ロータリークラブ週報

第2395回例会 平成20年1月30日(水)

● 会長 鈴木 敏弘 ● 幹事 石橋 嘉彦 ● 会場監督 新美 宗和 (SAA)

■ 例会日 毎週水曜日 12:30

■ 例会場 碧南商工会議所ホール

■ 事務局 碧南商工会議所内

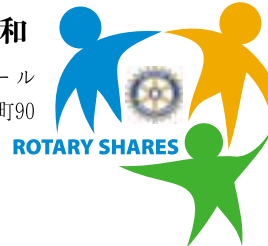
〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90

TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100

ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>

E-mail: info@hekinan-rc.jp

■ 会報委員 新美 惣英・長田 和徳・平岩 辰之・杉田 茂



2007~2008年度
国際ロータリーのテーマ

**ロータリーは
分かち合いの心**

● 斉 唱

ロータリーソング「手に手つないで」

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

● 本日のお客様

卓話講師 彫刻家・日展評議員・名古屋芸術大学教授美術学部長

(碧南RC50周年記念事業・碧南美術館寄贈「藤井達吉翁」像 制作者)



鈴木 敏弘会長

会 長 挨拶

大変寒い毎日が続いております。お身体には十分気をつけ、ご活躍されますようご祈念申し上げます。

先週の1月24日(木)一色クラブへメイキャップに行って参りました。これは江崎ガバナー公式訪問時に一色クラブの神谷会長を始め、来碧されたお返しで例会訪問をさせていただきました。

会員は現在31名で、神谷会長は会員増強に真剣に取り組まれ、当日クラブフォームで会員増強を会員全員によるアッセンブリーを行う為、事前に私も残って下さいと電話があり、お話を聞いておりました。その節、碧南の現況を聞かれ、お話し申し上げた次第です。

碧南クラブは、会員数もその年で極端に増加した事も少なく、又、反対に多くの退会者もなく、しっかり道筋を先輩ご諸兄が築かれ、又、会員の皆様のご協力の賜ものと痛感し、又、感謝申し上げます。

本年度も竹中増強委員長さんを筆頭に活動して頂いております。よろしくお願い致します。

次に1月27日(日)、安城ロータリークラブ創立50周年記念事業が開催され、ご案内を頂き、石橋幹事と共に出席させていただきました。

第1部 「生きがい 日本一の都市づくり提案」

第2部 「加藤登紀子コンサート」が開催され、第1部は今までの周年事業は物だけの寄付であったが、今回はハードからソフトへとと言う事で、心に訴える事業として、市へ3つのテーマを提案されました。

第2部は、安城市民会館サルビアホールにて、会場いっぱい市民の入場者のもと、愛知学泉大学オーケストラの素晴らしい演奏、そして加藤登紀子のシャンソンのコンサートが開催されました。

式典は2月9日(土)のご案内を頂いておまして、石橋幹事と共に出席させて頂くつもりです。

今日もどうぞよろしくお願い致します。

新入会員 入会式

会員増強委員長 竹中義雄君
新入会員 竹下 聡君（推薦者）長田徳雄君



竹中義雄君



竹下 聡君

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー・バッチ授与

永坂隆一君
長田徳雄君



幹事報告

- ・他クラブの例会変更等は幹事報告書の通りです。
- ・2月からロータリーレートの変更、
現行1ドル 112円 → 2月より 1ドル 108円に変更
- ・安城ロータリークラブより創立50周年記念ゴルフコンペの案内が届いております。



石橋嘉彦幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数79名(内出席免除者11名の内出席者 8名)出席者65名

出席対象者 65/76名 出席率 85.53%

欠席者14名(病欠者1名) 前々回修正出席率 97.01%

〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

- 長田 徳雄君 新入会員 竹下聡君 の紹介が出来まして。
杉浦 勝典君 原油高に伴い、燃料費高騰に苦しむ産地「三州瓦」の紹介をNHKにて1/23ほつとイブニングと1/29ウォッチ9(ナイン)にて放映されました。頑張ります。
鈴木 輝彦君 平成19年度愛知ブランド企業として認定されました。2/5 知事から認定書を頂きます。
平松 太君 平成19年度愛知ブランド企業に認定されました。今後とも“真心”を売って行きたいと思っております。
竹下 聡君 本日入会致しました。よろしくお願ひ申し上げます。

〈創立50周年記念実行委員会〉幹事 杉浦健次君
組織表と役割分担表の見直しと変更についての御案内

卓 話

「藤井達吉先生像制作にあたって」

彫刻家・日展評議員・名古屋芸術大学教授 美術学部長
神戸峰男氏

ただ今、紹介頂きました、神戸峰男と申します。

この碧南の地に「藤井達吉像」を建てさせる機会を頂きまして、本当にありがとうございました。

碧南と申しますと、今から約30年程前でしたが、彫刻を続けていけるかどうかと思っている時にこの地の方で、今はどうされているのか分かりませんが、嘉太郎さんという家具屋さんがありまして、その家具屋さんが、新しいお店を作られて、その中に画廊的な場所を用意したので一度、展覧会をやらぬかと言わ



れまして、そうさせて頂きました。

その時、どの程度の物を展覧会の規模にしたらいいのか、全く分からず、又、碧南の土地柄も大変不案内でしたものですから、とりあえず小さな作品を主に、焼き物で作ったものを100点持って来ました。それは、ほとんど全部裸婦像で「裸の女性像」を造って持って来た訳です。「裸婦100体展」と銘打って開催致しました。

大変、嘉太郎さんには努力して頂きまして、持って帰る物が1点も無い状態でした。その時の物が、碧南の方々又は、皆様方の押入れの片隅、もしくはどこかに作品が眠っているかもしれません。もし、どこかで見つけれられましたら、こんなのあったよと教えて頂ければ、懐かしい思い出になるかもしれません。どうかよろしくお願い致します。又、大浜の八幡神社に大きな馬を建立させて頂きました。これは「ギヤS」という会社の杉浦さんだっと思いますが、是非、若くて、これからの方で無名が良いと言うような事で、私の所へわざわざお出かけ頂き、あなたに作ってくれと言われ、費用については、私が決めると言われて、ポンと私のアトリエが建つ程、お金を置いていってくださった記憶があります。おかげで、何年間はそれで暮らすことができました。

本当に碧南は、その様な事もあって、沢山のご縁を昔から頂いていたなと思います。又、最近では縦山さんの方で、飾り瓦展覧会というコンクールを始められて、その審査に加えて頂きました。そのような事からも、益々ご縁が深まっている中で、このたび「藤井達吉像」というものを御指名頂きました。本当に重ねて、お礼を申し上げます。

藤井先生の事は、私は正直言いまして、良く存じ上げませんでした。もちろん、お名前は大変高名な方ですし、そういう意味では、良く解っておりました。しかし、どういう生い立ちで、どういった生活をされ、どういった業績を残されたかという事については、ほとんど無知であったというか、今もまだ十分でないと思います。お話しを頂きましてから、私なりに話しを聞いたり、その場所へお伺いしたりする中で、私が藤井先生の像を造って良いのか、そのような気持ちになったり致しましたが、逆に勇気を奮って、この際やってみようと思うのに2~3ヶ月かかりました。

制作に掛かり始めて行きますと、今度は色んな方から、色々なお話しを聞きますと、もう少し背が低かったよとか、もう少し高かったよと言うか、顔が大きい人だったよ、若い頃は細かったよとか色々ありました。又、性格は優しいと言われる方はほとんどいませんでした。反対にきつい人だったと言われる方が多く、特に、工芸のお弟子さん達は、あんな恐い人には今まで一度も会った事がないと言う程、恐い方だったようでございます。又、晩年に出会われた方達は、なんて言っても優しい方と言われます。ですから、私はどこの部分を造らせて頂いたら良いのかという事に非常に悩んだ訳です。そのような中で、碧南市教育委員会の方からこの「藤井達吉翁」という本をお貸し下さいまして、ずっと読んでいる中で、あとがきのあとがきの所がございまして、309ページに藤井達吉の全てがあります。そんな感じを受けて、益々、造る事が恐くなりました。ただ、3月には除幕をしなくてはならないという事で進めて参りましたが、進めて行く中で、藤井達吉先生というのは、全てに優れた方だと記憶していたんですが、彼の自分の言葉の中に、自分は絵描きにもなれなかった。そして工芸家にもなれなかった。もちろん、彫刻家にもなれなかった。それから、地位もなかった。才能もなく、子供も儲ける事が出来なかった。そういう事が面々と書いてあって、70有余年、何をしてきたんだという事が書いてあるんですね。これを読ませて頂いて、これは単に、自分を悲観するだけでなく、皆さんを戒めての言葉だと思います。

これだけ、それだけに精通してきたのに自分は完成することなく、晩年を迎えてしまったと皆さんにもっともっと勉強しないとだめだよと言う様な言葉ではないかと思ひ受け取った訳です。

そのような中で、設置場所を見せて頂きました。私は、立像を最初にイメージしたんですが、新しく出来る美術館の会場の入った所の天井が低く、それで先生が何かに腰掛けて、字か、絵か、歌か、何かを書こうとして、これから正に紙に何かを落として行こうという、そんな思いの瞬間

をとらえられたら良いかなと感じました。

先生は、立ったまま絵や字を書いたりあまりされなかったとお聞きしました。それで、座られて腰を掛けた像にしようと思い、台座を45cm位の高さにして、その上に45～50cm位の椅子とか岩とか、そういった物のどこかに腰を掛けて、そこで何か遠くを見て、これからその思いを感じた事を紙に落としていこうという所作に入る前の緊張した状態を像にしてみたいなと思い、やらせていただいた訳です。

やっていると最晩年をイメージ致しました。先生は、最晩年は杖をついてフラフラしながら、人に支えられながらも歩いていらっしゃる話しをお聞きしておりました。しかし、私達もそうですが、仕事に向う時は元気ができるものです。その時は、凜とした形にしたいという事で、背筋をピンと伸ばした状態で造らせて頂きました。

今度、除幕式がありますが、碧南の皆様方で、ご年輩の方の中には、藤井先生にはよくお会いした方とか、又、先程、藤井先生の晩年の健康を診ていたという先生にお会いし、お話しをお聞きすると「ガリガリ」だったようです。色々な思いの中で、こんな身体ではなかったと思いますが、あくまでも実際に生きている時の藤井先生というよりも、これから永遠に「碧南の地に藤井達吉あり」という形を見せる為に「凜とした姿の藤井達吉像」にしておく事が、その次の世代に先生を伝えるには、最も良い形だと思います。除幕式では、色々とその辺の所で御批判があるかと思いますが、お許し頂きたいと思っております。

最近、今は豊田市と言いますか。昔は小原村と言われた今も小原と言いますが、藤井先生の何人かのお弟子さんにお目にかかりまして、共通しておっしゃる事は、先程申しましたように、非常に厳しい先生だと言っておられます。

こんな逸話を言われました。お弟子の中の一人が、藤井先生のお弟子でありながら、東京の先生に自分の作品を見て頂き、御批評・御指導をして頂いたというお話がありました。その話が巡り巡って藤井先生のお耳に入ってしまったそうです。先生はお弟子さん全員を集めてお話しされたと言う事を最近聞きました。

お弟子さんには、「指導者というのは、私一人だけではない、しかし、地位があり、名誉があり、そういった方が本当に物が良く見える訳でもない。又、もちろん、素晴らしい方もお見えになるだろうがそういう肩書きに目を曇らせるな。もし、東京へ上京し誰かに指導を受ける時には、その背後にある肩書きを見るべからず。その人間を見てきなさい。それによって、評価を逆にすべきこともある」と言われたそうです。

この逸話は、お弟子さんのある方が藤井先生に不安を感じて、他の先生を支持したという事ではなく、全体の問題だろうと言われた事は、非常に私達の今の価値観について、その時に御教授されたような気がします。

藤井先生のお弟子さんの一人の先生が、最近の若い作家はその物の本質を見ない。その方の肩書き、地位だとかに目が眩んでいるのではないかとわれ、私も身の縮む思いをいたしました。

そのような話しを聞きながら、藤井先生の像を果たして造って良いものかなとと言うような事を思い又、心を新たにしたいところでございます。

像は、どのように造形されて、碧南の地に来るのかについてお話し致します。

つい最近まで、私は粘土で造っておりました。先週、粘土の像に上から石膏を1cm位の厚みになるように塗りまして、ちょうど卵の殻のように固めてしまいます。その石膏像の一部を切り取り、窓を空けて、そこから粘土を手でかき出して空洞にしてしまいます。

次に、空洞になった中に離型剤を塗りましてから、石膏像の中に別の石膏を流し込みます。これを「ハリコミ」と言います。

次に、外側の石膏を鑿で割ってしまい、ゆで卵の殻を取るようにして外の殻がコロっと取れる

と「石膏の真っ白い藤井達吉像」が出来上がります。それで第一段階が終わります。

今度は、その石膏の像にシリコンゴムを厚みにして、5～10mm位全体に塗ります。そのシリコンゴムの像を次に前と後ろに分かれるように、シリコンゴムの所だけを前と後ろに真っ二つに分かれるように切ります。それでゴム型の空洞が出来ます。

そして、次にそのゴム型の空洞の中へ蜜蝋を塗ってやります。厚みとして5mm位になるまでロウを塗って、固まりましたら、外側のシリコンゴムの型を外します。そうしますとロウの藤井達吉像が現れます。それは、まだ細かい所が十分に出来ていない箇所があります。その箇所と言うのは「髪の毛」「ヒゲの先端」「メガネの細かい所」等が出来ておりませんので、ロウで細かい所を細工して形を作ります。これで出来たなと思ったら「サイン」を致します。

次に今度は完成されたロウの藤井達吉像にセラミックパウダーというもので表面を覆います。しかし、パウダーをぶっかけるだけでは固まりませんので、粘土をシャバシャバにした泥を霧吹きでかけます。そうしますと表面に少し泥が付きます。次に、パウダーを吹き掛けます。そして、少し置いておきますと乾いて固まります。次に、また同じ様に「泥を掛けて、パウダーを掛ける」それを厚み5cm位になるまで、繰り返して作業しまして形が出来上がります。その物を700℃で焼きます。そうするとロウが全部燃えて溶けて流れてしまいます。それで、焼き物の型が出来上がります。

碧南の地は、鑄造業の盛んな所でございます。それと同じ様に、材料は銅と錫を銅を7、錫が3そして、鉛が0.1位入れて合金を作ります。それを1200℃まで温度を上げてやりますとサラサラの湯になります。その湯を焼き物の型に流し込んでやります。固まるのを待って、型を叩いて壊してやれば「合金の像」が出来上がります。しかし、焼き物の型は焼いていますので、どうしてもヒビが入ってしまいます。そのため、出来上がった合金の像には、細かく出っ張ったバリが出来ます。それを鑿で叩いて、仕上げていくという方法を取って完成する訳です。これから約1ヶ月と少しその仕事をさせて頂きたいと思っております。

ちょうど学校は入試の時期です。又、名古屋の美術館では、今、中日新聞が主催しています日展という展覧会をやっています。それが重なりまして、なかなか時間がとれませんので、他の仕事を止めても藤井達吉像の完成に向けて、最後の精進をしたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

出来上がりを楽しみにして下さいと言う程、自信はございませんが、是非見て頂きまして、ご批評又はご指導を頂けましたらと思っております。

今日は、ここに日展の入場券を少しですが持って参りました。興味のある方はお帰りにお持ち下さい。休館日は月曜日ですので、是非見に来て下さい。

私の今年の出品作は「朝」という題名で、女性の裸の像で立像でございます。

これは、私が昔よりテーマにしております、中国の西域地方に長い間、留学したり勉強をしに行ったりする中で、あの地方の人達が、アメリカやヨーロッパ、あるいは日本の文明にあまり影響されない中で、元気に自分達の社会をつくり、十分に生活を楽しんでいる人達がいるんだというようなメッセージを込めて作らせて頂きました。

その作品で、ちょうど「西の国から」シリーズで10作目になります。そんな事で、今年の作品が「西の国から」シリーズとして、最後の作品になるのではないかと思います、作った作品でございます。

展覧会をご覧頂きまして、色々ご批評を頂ければ幸いです。

普段、学生を前にして、講義の時間を超過する事は構わなくて話しをしており、話に力が入れば30分が3時間にもなるような授業をしており、途中で学生が出て行くような事があれば、「なんだ、俺の話しが聞けないのか」と平気でそんな事を言っている、とんでもない輩でございます。

今日はどうしても2分前にキッチリ終わるようにとの御命令でございました。しかし、なかなかちょうど2分前に終わるといふ訳にいきませんでした。本日は御清聴ありがとうございました。

最後に改めまして、このご縁を大事にしていきたいと思ひます。どうか今後もよろしくお願ひ致します。

失礼致しました。

次回例会案内 平成20年2月13日(水)

「中部国際空港セントレアの近況」

中部国際空港株式会社 執行役員 運用副本部長 上用敏弘氏
(空港施設部・地域連携担当) 兼 空港施設部長